

平成22年11月 9日  
独立行政法人  
日本原子力研究開発機構  
敦賀本部

## 高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る状況について

高速増殖原型炉もんじゅは、燃料交換作業の片付け作業中に発生した炉内中継装置の落下について原因調査等を進めております。

炉内中継装置の引抜きに向けた評価・判断に資するため、10月31日より炉内中継装置を観察するための装置の据付・調整等の準備を進め、本日、炉内中継装置の内側案内管の内面観察を行いました。

その結果、内側案内管の上部の上下方向のギャップが初期の状態から変化していることが認められました。この結果とこれまでの解析から、炉内中継装置の案内管の接続部に何らの変形があると推定され、炉内中継装置が使用できる状態にないこと及び通常の方法により引き抜くことができないと判断しました。

また、内側案内管の下部についても内面観察を行いました。ギャップの増加等の異常は認められませんでした。\*

今後、炉内中継装置の引抜きについて、総合的な評価・検討を行うとともに、炉内中継装置の外側観察の実施に向け検討を進めてまいります。

なお、本事象による原子炉容器及び燃料集合体への影響はなく安全が保たれており、周辺環境への放射能の影響もありません。

添付資料：炉内中継装置の接合部の内面からの観察結果について

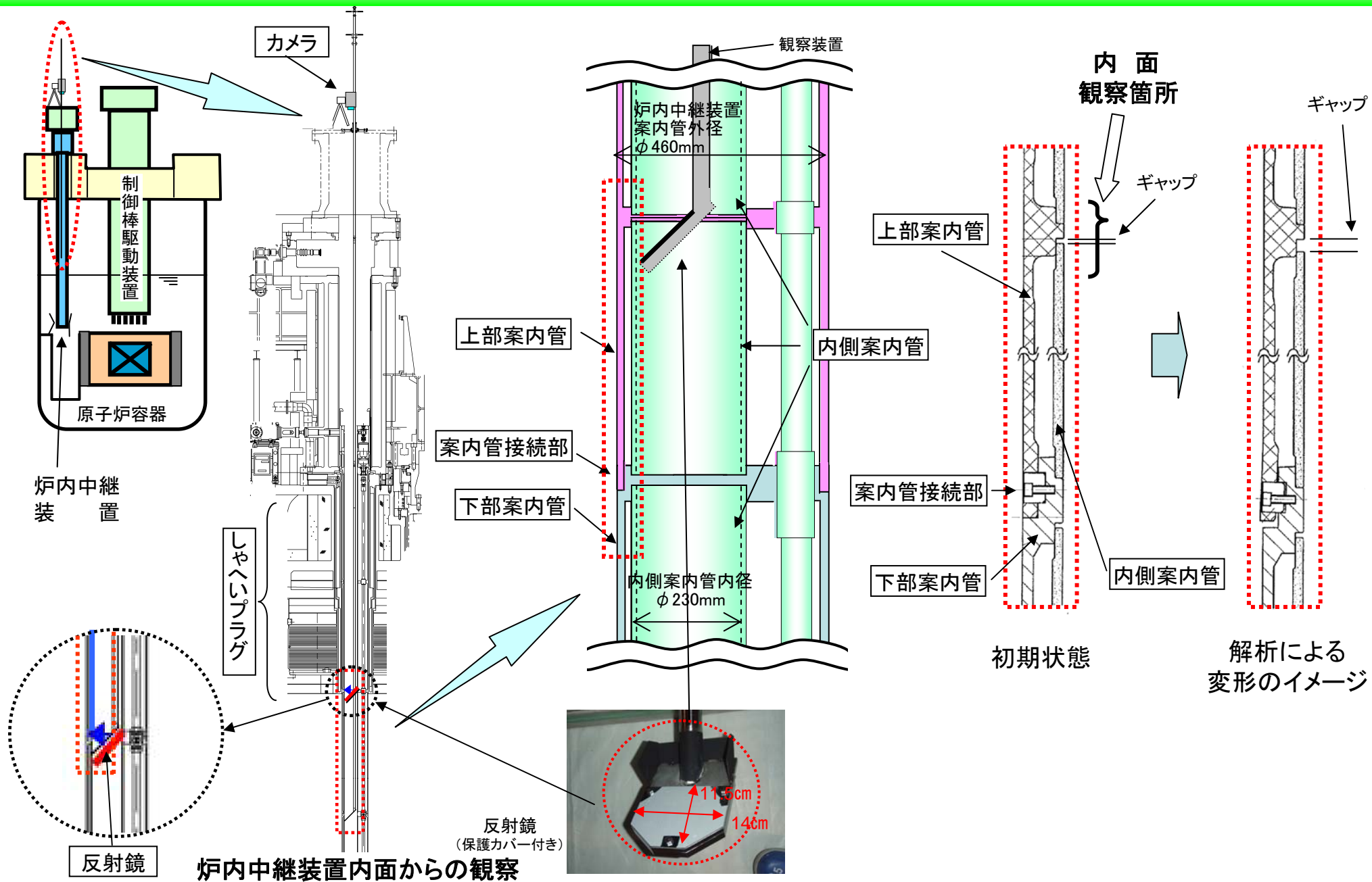
(参考) これまでの経緯

- 8月26日 炉内中継装置の引き抜き作業中に同装置が落下。
- 8月27日 保安院より、本事象発生時に通報連絡が遅れたこと及び本事象の原因究明と再発防止対策について報告するよう指示受領。
- 10月 1日 炉内中継装置の落下にかかる中間報告書を提出。
- 10月13日 炉内中継装置の引上げ作業を実施したが、約2m引き上げたところで荷重超過が確認されたため作業を中断。
- 10月31日 炉内中継装置内側案内管の内面観察のための装置の据付・調整等の準備作業を開始。

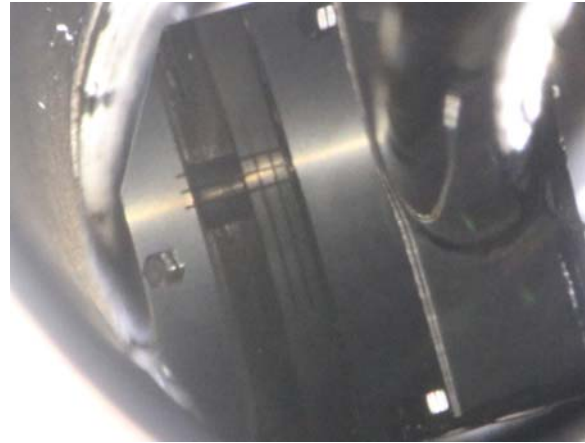
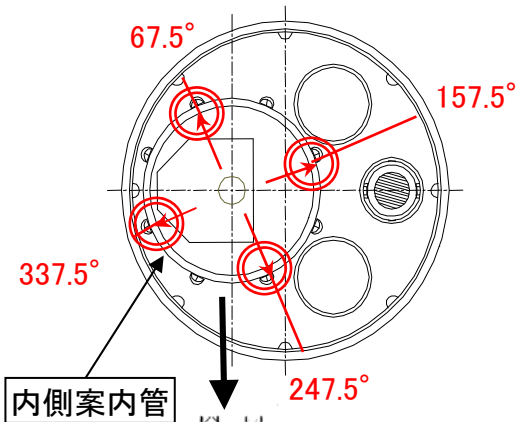
以上

※ 11月9日のプレス発表時に口頭でご説明した内容を追記しました。

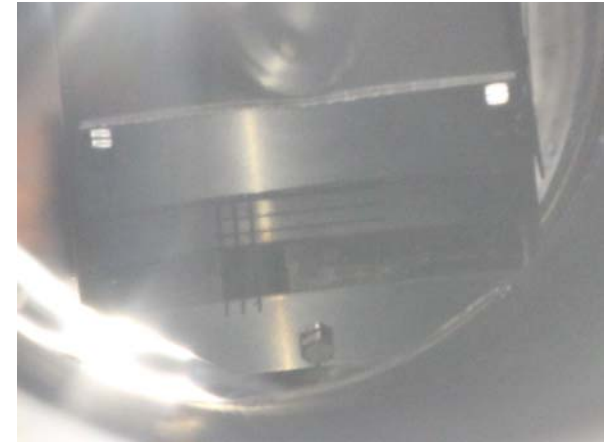
# 炉内中継装置の内面からの観察結果について



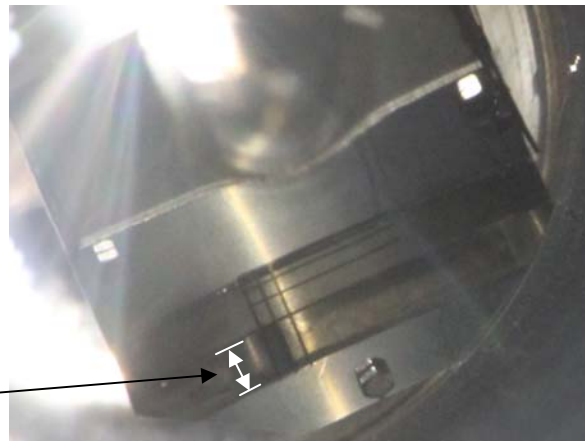
炉内中継装置を上方から見た図



内側案内管上部-67.5° 方向



内側案内管上部-157.5° 方向



内側案内管上部-337.5° 方向



内側案内管上部-247.5° 方向

ギャップ  
(14.5mm)  
※初期値5~7mm

炉内中継装置片側断面図

炉内中継装置内面の観察結果(内側案内管上部ギャップ)